

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2020年3月1日（日）

主 題：「ディアスポラの寄留者」

—選ばれた人々—

テキスト：1 ペテロの手紙1章1～12節

**はじめに**

- ・本日から、私たちはペテロの手紙から主の御声を聞いていきます。  
キリスト・イエスを信じるキリスト者へ迫害が強かった初代教会時代、ペテロは大胆な信仰をもって生きた立派な聖徒でした。私たちはこの書簡を通して、神のみ声を聞き、心からの礼拝をお捧げしていきたいと思います。
- ・ところで私は個人的に、このペテロが大好きです。なぜなら、彼の性格は、あわて者で、よく失敗する人で、目立ちがり屋さんで、意思の強い人で、それに主を否んでしまうという大変な「弱さ」を持った人であったからです。しかし、彼は主が言われたように、変えられました。彼は100%変えられた聖徒でした。そこに、私たちは希望を見ることが出来るからです。
- ・しばらく前のことですが、ある1人の婦人が感情的になり、他の人のことを痛烈に非難していました。私は静かにその方が言われることを、聞いていました。すると彼女は感情が高まり、「あの人は、100年たっても変わりませんよ!」、と切り捨てるように言われました。人間的にはそうかも知れません。
- ・私はあまりの強い言葉に圧倒され、沈黙してしまいました。しかし果たして、人はそのように断言できる存在でしょうか。私は一種の恐れを覚えたほどでした。いいえ、人は変わります。いや変えられるのです。聖書を開くと、ペテロをはじめ大きく変えられた人を発見できます。しかもイエス・キリストにあって、その現代版も見ることができます。
- ・愛する皆さん。ペテロはどんな人物であったでしょうか。そのペテロが、この書簡を書き送りました。私たちはそのペテロから学びたいと思います。2点

**大切なポイント****1. イエス・キリストの使徒ペテロ****1) 時代背景**

- ・紀元64年、ネロ皇帝の時代にローマでは大火災が起こりました。その後、ネロ皇帝はクリスチャンに対し大きな迫害を行いました。この書簡は、その大迫害が起こる前に、ペテロによって書かれたと思われます。
- ・ローマでのクリスチャン迫害は、当時ローマ帝国属州に散在するキリスト者たちに、非常に大きなショックを与え、同時に身に迫る危険も感じさせました。
- ・エルサレム教会の柱であったヤコブ（イエスの弟）は、大祭司によって殺害され、ユダヤの治安は乱れました。反ローマ的気運は高まり、反抗が横行する時代となりました。それはネロ皇帝の後期にあたります（AD54～68）。

- このように地上においては、ペテロは反乱と迫害が渦巻く不安定社会の中でも、キリストの救いの恵みに与る者は、復活の希望と信仰を持って生きることができると書きました。ですから、この書簡は実際的なことを語っています。そこで、著者ペテロについて考えてみましょう。

## 2) 著者ペテロ

- ペテロの元の名前はシモン（シメオン）ですが、イエスは「シモン」を「ケファ」（アラム語で岩という意味）と呼ばれました。 ヨハネ1章  
 1:41 彼はまず自分の兄弟シモンを見つけて、「私たちはメシア（訳すと、キリスト）に会った」と言った。  
 1:42 彼はシモンをイエスのもとに連れて来た。イエスはシモンを見つめて言われた。「あなたはヨハネの子シモンです。あなたはケファ（言い換えれば、ペテロ）と呼ばれます。」
- 当時はギリシャ語が普及していましたから、「ケファ」はギリシャ語で「ペテロ」と言い、それが一般的な名となりました。ペテロはイエスによって最初に選ばれた弟子でした。イエスはこの弟子に「岩」というあだ名をつけられました。弟のアンデレには、あだ名はつけられませでしたが、次に弟子に選ばれた兄弟、ヤコブとヨハネにはボアネルゲ「雷の子」という名をつけられました（マルコ3：13～19）。
- またイエスは、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの3人を、特に心にかけておられたことが聖書から読み取れます（マタイ17：1、26：37）。その中でもペテロは、イエスからとくに期待されました。弟子として最初に選ばれたのですから当然です。ペテロも心からイエスの期待に応えようとしていました。
- しかし、ペテロは私たちと変わりなく「弱い人」でした。聖書は次のように記録しています。それはイエスが十字架につかれた前夜、最後の晩餐の時でした。 ヨハネ13章  
 13:36 シモン・ペテロがイエスに言った。「主よ、どこにおいでになるのですか。」イエスは答えられた。「わたしが行くところに、あなたは今ついて来ることができません。しかし後にはついて来ます。」  
 13:37 ペテロはイエスに言った。「主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたのためなら、いのちも捨てます。」  
 13:38 イエスは答えられた。「わたしのためにいのちも捨てるのですか。まことに、まことに、あなたに言います。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」
- そしてイエスはさらにこう言われました。 マタイ26章  
 26:31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜わたしにつまずきます。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散らされる』と書いてあるからです。  
 26:33 すると、ペテロがイエスに答えた。「たとえ皆があなたにつまずいても、私は決してつまずきません。」
- ペテロはこう言いました。 ルカ22章  
 22:33 シモンはイエスに言った。「主よ。あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であ

ろうと、覚悟はできております。」

- しかし、この会話の翌日に次のことが起こりました。 マタイ 26 章
  - 26:69 ペテロは外の中庭に座っていた。すると召使いの女が一人近づいて来て言った。「あなたもガリラヤ人イエスと一緒にいましたね。」
  - 26:70 ペテロは皆の前で否定し、「何を言っているのか、私には分からない」と言った。
  - 26:71 そして入り口まで出て行くと、別の召使いの女が彼を見て、そこにいる人たちに言った。「この人はナザレ人イエスと一緒にいました。」
  - 26:72 ペテロは誓って、「そんな人は知らない」と再び否定した。
  - 26:73 しばらくすると、立っていた人たちがペテロに近寄って来て言った。「確かに、あなたもあの人たちの仲間だ。ことばのなまりで分かる。」
  - 26:74 するとペテロは、?ならのろわれてもよいと誓い始め、「そんな人は知らない」と言った。すると、すぐに鶏が鳴いた。
- ペテロはイエスを 3 度否定しました。しかし、イエスが十字架にかけられ、葬られ、復活された後、その彼が変わりました。さらにペンテコステで「聖霊」が注がれると弟子たちは一変しました。ペテロもまったく新しく、別人のようになりました。神によって、変えられました。
- 彼はエルサレム神殿内で説教し始めました。すると人々は心を刺され、悔い改めに導かれました（使徒の働き 2 : 37, 38）。当時のユダヤ社会指導者は、ペテロとヨハネを逮捕して、議会で裁判にかけました。その時、ペテロは断言しました。使徒の働き 4 章
  - 4:11 『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石、それが要の石となった』というのは、この方のことです。
  - 4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。
- ペテロはこのようにイエスをキリスト（救い主）と告白し、初代キリスト教会の第一人者となりました。それは神がなされたわざです。そのペテロが、この手紙を書いたことを知れば、私たちは熱い思いをもって読むことができます。

## 2. デイアスポラの寄留者

- このような劇的変化をしたペテロが書いた書簡の受け取り人は、1 節から 2 節にかけて記されています。
  - 1:1 イエス・キリストの使徒ペテロから、ポントス、ガラテヤ、カパドキア、アジア、ビティニアに散って寄留している選ばれた人たち、すなわち、
  - 1:2 父なる神の予知のままに、御霊による聖別によって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人たちへ。
- ここに、当時のユダヤ人キリスト者の「3つの特性」を見ることができます。

### 1) 「選ばれた人たち」

- ヘブル文化の特徴の一つは、はじめにあると思います。強調点が、はじめに述べられる

ことが多いです。たとえば、イエスは多くの「たとえ話」を語られましたが、そのはじめに「神の国はこのようです」と言われ、そして「神の国」について説き明されました。

- 手紙のはじめも同じようです、パウロは手紙の宛先を「召された人たち」とか「聖徒たち」等と呼びました。しかしペテロは「選ばれた人たち」と呼びました。ヨハネ15章でイエスは言われました。

**15:16** あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。

- 主イエスを信じ従うようになった私たちみ、「選ばれた人たち」です。私たちが選んだのではありません。私たちは主によって選ばれたのです。選ばれるにふさわしいからではありません。選ばれたのは、ただ主の恵みによるのです。

## 2) 「寄 留 者」

- 次に手紙の宛先を寄留している人々を、「寄留者」と表現しています。寄留者は自国に住んでいる人ではなく、外国に滞在している人です。長い間、自分の国ではないところで生活している人が寄留者です。
- 私は22歳から35歳までの約12年間、ドイツに住んでいました。私はドイツで家内と結婚し、家内はドイツで9年間生活しました。神は私たちに3人の子どもを授けてくださいました。子どもたち3人も、ドイツで生まれました。私たちにとって、長年住んだドイツには故郷のような気持ちがあります。
- しかし、それでもそこは「私の国」ではありません。自分が寄留者であることを意識させられ時は、ビザの延長手続きの時でした。学生ビザであれ、労働ビザであれ、ドイツ国籍がない人は滞在許可をもらわなければなりません。寄留者であったからです。
- アブラハムをはじめ、先人の信仰者たちは、自分たちは「地上では旅人であり、寄留者である」という自覚をもって人生を歩んでいました。

ヘブル人への手紙11章

**11:13** これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。

- ペテロはこの事実を、「ポントス、ガラテヤ、カパドキア、アジア、ビティニア」（今日のトルコの西半分）の聖徒たちに、思い起こさせることをもって書き始めました。

## 3) 「ディアスポラ」

- そしてもう一つは、ディアスポラ（散って）という単語が目にとまります。それはあちこちに離散し住んでいた人たちのことです。紀元前6世紀、ユダヤ人たちは国を失い、中近東各地に散り散りになりました。
- 神が約束された地ユダヤを離れて、あちらこちらに散在して暮らすようになりました。その彼らをディアスポラのユダヤ人と呼びます。使徒パウロもディアスポラのユダヤ人でした。

- ・ペテロはこの言葉を、イエス・キリストを信じるユダヤ人たちにも使いました。  
1世紀の半ば頃も、地中海世界の各地にユダヤ人たちは散って住んでいました。この「**散って寄留している**」という表現で、キリスト者はどういう者たちなのかを明らかにしています。

### ① 第一に帰るべき故郷があることです。

- ・今は寄留者ではありますが、やがて帰ることになる天の故郷があるということです。外地生活をしていた私たちは、やがて帰るべき故郷があることを覚えて生活をしていました。
- ・私たちキリスト者は帰るべき故郷をもっています。地上の故郷と違い、まだ見ていない天の故郷です。あらゆる罪と悪と災いから解放された、永遠の世界です。そこが私たちの天の故郷です。私たちは、その故郷を仰ぎ見ながら寄留者として生きるのです。「**散って寄留している**」人々には、も1つ意味があると思います。

### ② 地上で労苦しながら、忍耐しながら、果たすべき使命がある

- ・私たちの周りには、創造神を知らない多数の人々がいます。私たちはその人々の間で、それぞれが散って、仕事をし、交流し、勉強し、生活しています。  
当時のユダヤ人キリスト者はそうでした。彼らは「**散って寄留している**」状態でした。
- ・そこで時には、受け入れられない自分を知ることもあります。しかし、そのような状況で忍耐し、神の愛と真実を証ししていく使命が与えられています。  
それが「**散って寄留している**」キリスト者というものです。それは旅人です。  
天の御国へ向かって歩む、すばらしい旅人です。それがキリスト者の姿です。

## ま と め

主 題：「ディアスポラの寄留者」

—選ばれた人々—

- ・今日のメッセージをまとめてみましょう。  
12弟子のリーダであったペテロは、いろいろな弱さや失敗を経験しました。「私はあの人を知らない」と主を否定し、ペテロは自分がどんなに弱い人間かを思い知らされました。
- ・それにも関わらず、いいえ、まさにそのような経験をしたからこそ、教会の指導者となり「**ケファ**」(岩)のような存在となりました。自分の生まれながらの力や、何かに頼ることはできないと徹底して知らされました。主により頼む者となったからこそ、この手紙を書くことになったと思います。
- ・私たちもそうです。主が働いてくださり、育ててくださるのです。自分の肉の力ではなく、弱さの内に現れてくださる主の御力を体験させていただきましょう。ペテロは普通の弱い者でした。しかし、主によって変えられました。
- ・ここで教えられることは2点：  
1. 私たちも、変えられる希望がある

## 2. 私たちも「選ばれた人たち」、「ディアスポラの寄留者」である

- 私たちには帰る所、すなわち天の故郷があります。  
確かに地上の生活では悩みがあります。戦いがあります。苦しみもあります。  
痛みもあります。神を知らない人たちの間で、日々試みを受けています。
- しかし、主は私たちの労苦を知っておられます。試練を用いて、私たちを育ててくださいます。
- 私たちはこの地上で、神のみこころを行うために選ばれ、召された者です。  
そこに、主はともにいてくださいます。私たちは天の故郷を仰ぎ見ながら、主を証しし、神の愛をお伝えしていく者です。
- そこに、神の子（息子）とされた聖徒の特権があります。私たちは、戦いや苦しみがあっても、天の故郷を仰ぎ見て歩んでまいりましょう。

\* God bless you !